

### 企画情報部

企画情報部は、総務担当及び企画担当により組織されている。

総務担当では、庶務的業務や予算経理、庁舎管理、職員の安全衛生等の業務を行った。

企画担当では、企画運営全般にわたる連絡調整、研究業務に関する企画調整、情報システムの整備・運用やホームページ・メールマガジンによる情報発信、保健所等関係職員への研修指導、公開行事等を通じた普及啓発の業務を行った。

#### <総務担当>

##### 1 庶務

人事管理事務、臨時職員等の任用、文書收受発送等

##### 2 予算経理

収入・支出業務、給与の支払、旅費の支払、物品購入、監査に関すること等

##### 3 庁舎管理

防火管理、各種保守管理委託業務、公用車管理等

##### 4 職員の安全衛生

健康診断の実施、厚生福利等

##### 5 その他

他部に属さないこと

#### <企画担当>

##### 1 企画調整

###### 1) 企画運営体制の整備・運用

センターの企画運営に関する基本方針等を定めた「岩手県環境保健研究センター企画運営要綱」に基づき、企画運営全般、研究課題の設定・評価の実施等に関する必要な運営規程等の見直し等を行い、関係機関との協議・連絡体制を整備した。

センター業務の基本方針や重要事項の検討・協議等については、本庁関係部(保健福祉部・環境生活部)と調整を図った。

###### 2) 研究業務の企画調整

センターにおける今後の環境と保健に関する研究推進の目標・方向性等を定めた「岩手県環境保健研究センター研究推進基本構想」、センターにおける研究課題の設定・事前審査等について定めた「研究推進実施要領」等に従い、研究計画の作成をした。

###### 3) 研究課題の外部評価

効果的・効率的な試験研究の推進を図るため、「岩手県環境保健研究センター研究課題評価実施要領」に基づき、外部の専門家・有識者等で構成する「研究評価委員会」を開催し、研究課題の外部評価を受けた。評価対象となった課題は、平成23年度から新たに開始する研究課題3テーマ、継続中の研究課題3テーマ、計6テーマであった。

##### 2 情報管理

###### 2) 環境保健総合情報システム

「環境保健総合情報システム」は、センター及び保健所等関係機関が環境・保健に関する各種業務で使用しているシステムであり、公開可能な情報についてはセンターホームページに掲載している。

## 2) 図書室

図書室では、旧衛生研究所及び旧公害センター所蔵の資料等に加え、環境及び保健に関する資料、書籍等の収集を行っており、地域住民等に対し環境保全及び保健衛生に係る情報を提供できる体制を整備している。

また、平成 22 年 3 月より、到着した図書・資料等を月ごとにまとめてセンターホームページ「お知らせ・新着情報」に掲載し、情報を提供している。

## 3 保健福祉環境行政セミナー

保健福祉部及び環境生活部の職員等を対象に知識及び技術の研鑽と交流を図り、保健福祉環境行政の総合的な推進に寄与することを目的に、当センターを会場としてセミナーが開催された。

開催日：平成 23 年 2 月 18 日（金） 参加人数：120 名

内容：研究発表 自殺対策：6 題 保健・医療・福祉分野：19 題 環境・衛生分野：9 題

## 4 普及啓発

当センターが担っている県の保健・環境に関する科学的・技術的中核機関としての役割や業務について、様々な方法を組み合わせた的確に分かりやすく情報発信し、保健や環境について広く県民の理解を深めることを目的として、普及啓発を行った。

### 1) 施設の公開行事

施設の公開行事として、「夏休み子ども講座」及び「一般公開」を行った。

#### (1) 夏休み子ども講座 ~ Hot (ホット)? Cool (クール)? 温度の不思議を体験しよう! ~

長期休暇中の小学生を対象に、環境や保健に対する興味を喚起することを目的として、開催しているものである。小学生が講座で得た知識を帰宅後に自身で実践できるようなカリキュラムを設定した。

講座の前半は、「考えてみよう! 地球の温度」をテーマとして、アイーナの「岩手県地球温暖化防止活動推進センター」の職員から、クイズなどを交えて地球温暖化について説明し、参加者全員で地球の温度について考える機会とした。

後半は、「選択テーマ」として、5 つの選択テーマのうちから 1 つのテーマを選んで参加し、班毎に実験を行った。

開催日：平成 22 年 7 月 30 日（金）参加人数：35 人

### 内容

#### 共通メニュー

考えてみよう! 「地球の温度」

#### 選択メニュー

夏祭りで大実験~ カルメ焼きできるかな? ~

冷凍庫を使わずにアイスが作れる?

温度で「味」が変わる?

ゼリーはなぜ固まるの？

炭酸飲料で温室効果？

## (2) 一般公開

当センターの業務及び研究内容の紹介を目的としたものであり、隣接する工業技術センターと時期を合わせて行った。

開催日：平成 22 年 10 月 8 日（金）～平成 22 年 10 月 9 日（土） 来館者数：454 人

内容： 各部業務紹介イベント

業務紹介コーナー（健康と環境に関する業務のパネル展示）

健康は、毎日の生活習慣から！（インフルエンザクイズ、手洗い実験、みそ汁塩分実測）

サイエンス厨房 「天然にがり豆腐花（トウファー）」

放射線が目に見える？！

ネイチャークラフト（枯葉でしおりや葉書きを作りながら、自然保護について考える）

この秋“水”を味わう！（「利き水」体験コーナー、岩手の水環境調査の紹介）

食の安全・安心カフェ、オープン！（生ジュースを飲みながら、食の安全・安心を考える）

施設内見学ツアー 参加者数：81 名

各部業務紹介イベントとは別に、1 時間程度で施設全体を見学する「施設内見学ツアー」を 8 日（金）に 4 回、9 日（土）に 6 回の計 10 回実施し、合計で 81 名が参加した。

## (3) キャンドルナイト

環境学習交流センターと岩手県が主催した「100 万人のキャンドルナイト in いわて 2010 - 冬至編 - 」を当センターで開催した。

地球温暖化防止を推進するイベント等が行われ、当センター地球科学部から、温暖化により生息地域が北上してきていると考えられている「ヒトスジシマカ」の岩手県における分布状況の説明等を行った。

開催日：平成 22 年 12 月 23 日（水・祝）17：00～19：00 参加者数：100 名（主催者調べ）

## 2) 施設見学

施設見学について、随時希望者の見学を受け入れており、平成 22 年度における施設見学者は、795 名（公開行事への参加者含む）であった。

## 3) ホームページによる情報提供

岩手県において、平成 19 年 10 月からホームページの運用がコンテンツマネジメントシステム（CMS）に一元化されており、当センターにおいても CMS により、環境・保健情報の発信の充実及び分かりやすいデータの公開に努め、充実強化を図っている。

平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月までのホームページアクセス件数は、66,873 件であった。

## 4) 環境保健研究センターメールマガジン「知ってた？！環境研聞録」の配信

当センターが保有する保健・環境に関する情報の提供を希望する県民等に対し、定期的に分かりやすい情報を提供し、当センターの担っている役割や業務内容を理解していただくことにより、広く環境や保健についての理解を深めることを目的として、平成 22 年 7 月から毎月 20 日頃に会員に対して配信している。

メールマガジン「知ってた?! 環境研聞録」の概要(23年3月31日現在)

- ・会員数 - 81名(一般会員8名、テレビ局・新聞社12名、その他県職員等61名)
- ・配信実績 - 第1号(平成23年7月)から第8号(平成23年2月)まで配信。なお、平成23年3月においては、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波への復興支援業務のため、配信を4月に延期した。

## 6 職員の資質向上

業務の遂行に資する情報をはじめ多方面の情報を基に、所長以下全職員が参加して意見交換することにより、組織の果たすべき役割への理解を深めるとともに、職員個々の能力開発及び組織能力の向上を図るため、I-RIEPセミナーを開催した。

また、職員の有する環境・保健分野の専門知識及び検査技術をさらに向上させるため、研修会等への職員派遣を行った。

平成22年度I-RIEPセミナーの概要

開催回数：10回

発表題数：17題

延べ参加者数：484人

内容：各所員からの業務説明・発表に加え、平成22年7月15日(木)には、県庁総務部法務学事課私学・情報公開担当を招き「個人情報保護に関する研修」を行い、51名が研修に参加した。

## 保健科学部

### 1 平成22年度の動向

保健科学部は、感染症や食中毒に関連した検査及び調査研究並びに、地域保健分野の調査研究に取り組んでいる。また、地方感染症情報センターが設置されており、感染症情報の収集・解析・提供を行っている。

### 2 行政検査

感染症発生動向調査に係る検査363件、抗HIV抗体検査54件、感染症流行予測調査62件、食中毒等集団発生に係る検査402件、感染症法に基づく試験検査1345件及び食品収去検査16件について実施した。

#### 1) 感染症発生動向調査に係る検査

病原体定点医療機関から搬入された363件(363検体)についてウイルス検査361件、細菌検査2件を実施した。  
(86頁)

#### 2) 抗HIV抗体検査

保健所(県央、宮古、二戸)で実施されたHIV休日・即日検査に対応して54件について血中のHIV抗体検査を実施した。

#### 3) 感染症流行予測調査

ポリオ感染源調査として、小児62名を対象に糞便のウイルス分離試験を行った。

#### 4) 食中毒等集団発生に係る検査

食中毒事件、有症事例等に関連し、合計402件(細菌80件及びウイルス322件)の検査を実施した。病因物質別内訳は、下痢原性大腸菌50件、黄色ブドウ球菌11件、カンピロバクター4件、ウエルシュ15件及びノロウイルス等322件であった。

#### 5) 感染症法に基づく試験検査

検査を1345件実施した。内訳は、2類感染症にかかる結核菌感染診断用インターフェロン-測定試薬検査(QFT)が1177件、3類感染症が132件(腸管出血性大腸菌132件)、4類感染症が18件(A型肝炎7件、ジアルジア2件、レジオネラ9件)、5類感染症が9件(麻疹3件、手足口病6件)、新型インフルエンザが9件であった。

#### 6) 食品収去検査

貝毒(麻痺性)検査を16件(ホタテガイ)実施した。

### 3 受託検査

盛岡市からの依頼により35件(新型インフルエンザ8件、ロタウイルス20件、サポウイルス5件、麻疹2件)の検査を実施した。

### 4 感染症情報センターの業務

感染症情報センターでは、岩手県感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、感染症情報の収集、報告、還元を行っている。県民に対しては、岩手日報紙上及び当研究センターのホームページに感染症発生動向調査結果の概要を毎週掲載しているほか、「岩手県感染症週報」及び「岩手県感染症月報」の発行、メールマガジン「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」の配信など、感染症に関する情報サービスの向上に努めている。

また、平成22年度は岩手県感染症発生動向委員会を次のとおり開催した。

第1回 H22.11.8 「感染症発生動向調査の解析評価について」 環境保健研究センター小会議室

## 5 感染症検査ネットワーク会議事務局としての業務

感染症検査ネットワーク会議は、感染症の検査において、医療機関の検査部門、民間検査機関、動物由来感染症担当部門並びに環境保健研究センター等が相互に連携する体制を整備するとともに、検査技術と精度管理の向上及び感染症対策に係る知識の向上を図ることを目的に活動を行っている。平成22年度は感染症検査技術研修会を次のとおり開催した。

第1回 H22.9.4

実習「初心者のためのグラム染色；標本の作り方、染色法、観察のしかた」

講義「グラム染色による症例検討」

第2回 H23.2.5

講義「最近の感染症の発生動向について」

講義「421症例の新型インフルエンザ患者背景」

講義「結核とクオンティフェロン検査の有用性について」

講義「250万年前からの逆襲 - 侮るなかれ結核- 結核経験者が語る結核対策」

## 6 感染症予防に関する普及啓発

県内保健所、施設、団体等からの依頼により、感染症予防のための研修会で講師を務めた。

月日	場 所	内 容	人数
9/8 9/21	アイーナ	平成22年度感染症・食中毒予防対策研修会	約200名
9/15 9/16	一関保健所	一関地域新型インフルエンザ対策連絡会議及び研修会	約100名

また、一般公開やホームページを通じて、身近な感染症情報の提供に努めた。

## 7 地域保健

### 1) 「特定健診・特定保健指導」従事者技術高度化支援事業の実施

平成20年度から実施された「特定健診・特定保健指導」事業が円滑に推進されるよう、従事者研修会、保健所担当者研修会及び研修等評価委員会を開催した。

平成22年度は、特定保健指導評価シート（平成21年度作成）を活用し、特定保健指導の評価を行った。

また、医療保険者からの依頼により特定健診・特定保健指導に関する研修会の講師を担当し、医療保険者の支援を行った（2回・参加者108名）。

< 特定健診・特定保健指導従事者研修会開催状況 >

分野	研修概要	修了者または受講者	実施主体等
一定の研修	基礎編 期日：平成22年7月13日・14日 場所：環境保健研究センター 内容：「標準的な健診・保健指導プログラム」に基づく講義及び演習	< 修了者 > 基礎編 65名 技術編 47名	環境保健研究センター
	計画・評価編 期日：平成22年7月26日 場所：環境保健研究センター 内容：同上	< 修了者 > 計画・評価編 41名	環境保健研究センター
フォローアップ研修（広域版）	第一回 期日：平成22年8月24日 場所：環境保健研究センター 内容：「特定保健指導におけるグループ支援プログラムについて」 （講師）日本健康開発財団研究調査部課長	< 受講者 > 43名	環境保健研究センター
	第二回 期日：平成22年10月13日 場所：環境保健研究センター 内容：「生活習慣病予防のための禁煙支援」 （講師）岩手中部保健所所長 岩手医科大学附属病院循環器医療センター薬剤長	< 受講者 > 40名	・環境保健研究センター
	第三回 期日：平成23年1月31日 場所：環境保健研究センター 内容：「特定健診・特定保健指導事業評価について」 （講師）岩手県国民健康保険組合団体連合会主事 国立保健医療科学院疫学部長 （事例提供）花巻市・岩手町	< 受講者 > 68名	環境保健研究センター

< 「医療保険者の特定健診・特定保健指導支援事業」等担当者研修会開催状況 >

開催日	内 容	参加者
第1回 H22.6.2	・平成21年度特定健診・特定保健指導支援事業報告、環境センター事業報告 ・講義「生活習慣病対策の疫学データの見方、SALナビソフトについて」	15人
第2回 H23.1.31	・平成21年度特定健診・保健指導実施状況、平成22年度従事者研修会開催状況 ・意見交換「地域の生活習慣病予防の課題と研修支援について」	12人

< 特定健診・特定保健指導研修評価委員会開催状況 >

開催日	内 容
第1回 H23.1.11	第1回小委員会 ・特定健診・特定保健指導事業の実施状況に関する調査結果について本年度調査事業のまとめ方について検討
第2回 H23.1.26	第1回評価委員会 ・平成22年度従事者研修会の開催状況について ・特定健診・特定保健指導の実施状況に関する調査（中間報告）
第3回 H23.1.26	第2回小委員会 ・調査結果報告様式の検討 ・保健指導技術の高度化に向けた研修課題について
第4回 H23.3.10	第3回小委員会 ・特定健診・特定保健指導の実施状況に関する調査結果の検討 ・平成23年度特定健診・保健指導従事者研修会（案）の検討
第5回	第2回評価委員会 ・東日本大震災のため中止。資料送付とする。

2) 保健情報の有効活用

(1) 環境保健総合情報システム（多次元システム）の運用

「感染症発生動向調査」や「人口動態」などの統計情報を、同システムにより保健所等に提供するとともに、市町村や学校等の関係機関からの要望に応じ、随時提供した。

また、保健科学部のホームページ「保健情報の広場」により、市町村等関係機関が、必要な統計を随時閲覧できるよう情報の掲載と更新を行った。

#### (2) いわて健康データウェアハウス事業の実施

学校領域、市町村領域における生活習慣データや特定健診・特定保健指導データを収集し、協力機関、関係機関に解析データの還元を行った。

また、得られたデータの解析評価を行うため、いわて健康データウェアハウス健康課題評価委員会を開催した。

#### <いわて健康データウェアハウス健康課題評価委員会開催状況>

開催日		内 容	参加者
第2回	H22.9.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度特定健診・特定保健指導データ還元内容集計結果について</li> <li>・特定健診・特定保健指導データの還元について</li> <li>・健康データウェアハウスの活用について</li> </ul>	8人
第3回	H23.3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度がん等疾病予防支援システム（学校保健領域・市町村領域）、特定健診・特定保健指導データの単純集計結果の概要について</li> <li>・特定健診・特定保健指導データの「地域比較データ」「クロス集計」の提供方法</li> <li>・健康データウェアハウスを活用した情報提供例について</li> </ul>	8人

#### 3) 健康づくりに関する普及啓発

県内保健所、施設、団体等が開催する健康づくり関連の研修会等を通じて、各種保健統計情報から得られた県民の生活習慣や疾病の実態に基づき望ましい生活習慣が定着するようその普及に努めた(6回 829名)。

また、普及啓発用媒体として IT を活用した食事チェックサイトや幼児・児童向けの食事チェックシートにより、若年期からの生活習慣病予防の普及に努めた。

#### 4) その他

- (1) 岩手医科大学「岩手県北地域コホート研究」等共同研究へ参画。
- (2) 岩手県自殺予防対策推進協議会出席。
- (3) 学生臨地実習指導。

歯科医師臨床研修及び県立大学看護学部地域看護実習にあわせて、感染症対策、健康づくり業務について指導した。(歯科医師：2回9名・看護学生：1回100名)

#### 8 委託調査等

- 1) 食品中の病原ウイルスのリスク管理に関する研究(厚生労働科学研究費補助金)
- 2) 食中毒調査の精度向上のための手技等に関する調査研究(厚生労働科学研究費補助金)

#### 9 調査研究

- 1) 腸管出血性大腸菌による健康被害発生時における疫学的解析手法の検討に関する研究 (32頁)
- 2) 吸着剤を利用したノロウイルス低減化に関する研究 (31頁)
- 3) 病原微生物の疫学マーカーのデータベース化に関する研究 (33頁)



## 衛生科学部

### 1 平成22年度の動向

衛生科学部は、県で策定する食品衛生監視指導計画に沿って行う収去検査(理化学検査)を行っている。  
また、これらの日常検査業務に反映する分析方法の研究、県民に安全・安心を提供すべく調査研究に取り組んでいる。

### 2 行政検査

食品、水道水、医薬品等の行政検査、346件 22,710項目の検査を実施した。

#### 1) 食品収去検査

##### (1) 残留農薬検査

国内産農産物および輸入農産物計172検体について、農薬120種類、延べ18,300項目の検査を行った。

その結果、86検体から述べ179農薬が検出され、ほとんどが基準値以内であったが、2検体が残留基準値を超過していた。

国内産農産物のうち、畜産物20検体(牛肉6、鶏肉10、豚肉4)については、有機塩素系農薬3種類、延べ60項目の検査を実施した結果、農薬は検出されなかった。

##### (2) 添加物検査

着色料：加工食品等14検体について、合成着色料12種類の検査を行った。その結果、全て許可された着色料であり、適正に表示されていた。

合成保存料：漬物、食肉製品等31検体について、合成保存料3種類の検査を行った。23検体から延べ23物質の保存料が検出されたが、全て使用基準値以内であった。

酸化防止剤：加工食品等14検体について、酸化防止剤(tert-ブチルヒドロキノン、TBHQ)の検査を行ったが、いずれの検体からも検出されなかった。

合成甘味料(サイクラミン酸)：漬物等12検体について、サイクラミン酸の検査を行ったが、いずれの検体からも検出されなかった。

##### (3) 遺伝子組換え食品検査

輸入とうもろこし加工食品7検体について、未審査組換え体であるBt10の定性試験を行った。その結果、未審査組換え体Bt10は検出されなかった。

##### (4) アレルギー物質検査

「そば」混入の可能性がある県内で製造された小麦粉食品(20検体、乾麺、ゆでうどん、生中華麺)及び米粉食品(1検体、生麺)の計21検体について検査したが、いずれの検体からも検出されなかった。

##### (5) 畜水産食品中の残留動物用医薬品収去検査

鶏卵15検体、養殖魚4検体、輸入はちみつ10検体について、セファロスポリン系、マクロライド系、テトラサイクリン系、アミノグリコシド系抗生物質や合成抗菌剤のサルファ剤・キノロン剤、寄生虫駆除剤・殺虫剤等について検査を実施した。検査項目数は鶏卵57項目、養殖魚66項目、はちみつ67項目で、いずれの検体からも抗生物質等は検出されなかった。輸入牛肉10検体については抗生物質及びホルモン剤等56項目の検査を実施したが、いずれの検体からも抗生物質等は検出されなかった。

#### 2) 水道水源農薬調査

病害虫・雑草防除のため使用される農薬の水道水源への影響調査のため、水質管理目標が設定されている農薬（96項目）を対象に年2回（5月、8月）、県内8河川9地点において調査を実施した。その結果、延べ25種類の農薬が検出されたが、全ての農薬とも目標値を大幅に下回っていた。

#### 3) 医薬品等一斉監視指導収去検査

医薬品等一斉監視指導実施要領に基づき、医薬品製造業者及び販売業者に係る12検体の収去検査を行った。検査の結果は医薬品製造業者の検体は医薬品製造承認で定める基準に合致、また、販売業者の検体は表示含有量の範囲以内であった。

#### 4) その他の検査

有症苦情調査の一環として、クワズイモ4検体についてシュウ酸濃度の検査を、サバ2検体についてヒスタミン濃度の検査を実施した。

### 3 調査研究

平成22年度は主たる調査研究として、次の課題を実施し、成果は学会等において口頭および報文等にて発表している。

- 1) 食品中の有害物質等に関する調査研究
- 2) LC/MS/MSを用いた動物用医薬品分析法の検討と応用
- 3) 磁性炭化物の開発および環境浄化技術に関する研究

## 環境科学部

### 1 平成22年度の動向

環境科学部は、公共用水域・地下水に係る常時監視、特定事業場等立入に係る水質検査、ダイオキシン類環境モニタリング事業、環境事件事故等に係る行政検査、環境に係る課題解決のための調査、水生生物を指標とした河川水質マップ作成、化学汚染物質(POPsなど)に係る調査研究に取り組むと共に、東アジア環境分析技術支援事業を実施している。

### 2 行政検査

#### 1) 公共用水域の常時監視

平成22年度「公共用水域水質測定計画」に基づき河川、湖沼及び海域の水質検査の一部ならびに底質検査を行った。また、盛岡市及び国土交通省の機関(北上川ダム統合管理事務所、岩手河川国道事務所)を含む各分析機関から県内公共用水域の水質データ(2,461件分)を集めデータベースを作成した。

#### 2) 地下水質の常時監視

平成22年度「地下水質測定計画」に基づき、県内各市町村(盛岡市を除く)における概況調査(62件)、概況調査で新たに汚染が確認された汚染井戸周辺地区調査(15件)及び従来から汚染が確認されている井戸の経年水質変化監視のための定期モニタリング調査(43件)を実施するとともに、盛岡市を含む各分析機関からのデータを集計した。

#### 3) 特定事業場等の立入に係る水質検査

各地方振興局では水質汚濁防止法に基づき、各事業場の立入検査を行っており、環境科学部では、その排水中の重金属、PCB、シアン化合物、フェノール類、ふっ素、ほう素、窒素、燐、農薬等について分析を実施している。22年度は、282検体、740項目を分析した。

#### 4) ダイオキシン類環境モニタリング事業

ダイオキシン類環境モニタリング事業として、一般環境3地点(北上市、大船渡市、二戸市)、沿道2地点(宮古市、一関市)及び発生源周辺3地点(八幡平市、住田町、軽米町(秋・冬のみ))について、環境大気を年4回測定している。調査結果は、全て環境基準値以下であった。

#### 5) 環境事件事故等関連分析調査

魚類へい死関連、廃棄物不適正処理関連調査、土壌汚染に係る地下水調査、苦情関連等の事件事故の際に持ち込まれた74検体について重金属、農薬等3,396項目の分析を実施した。

#### 6) 環境測定分析全国統一精度管理調査

環境測定分析の信頼性確保及び精度の向上を目的として環境省実施の統一精度管理調査に参加した。基本精度管理項目として土壌試料中の重金属類、高度精度管理項目として模擬水質試料中のPFOS及びPFOAを分析し、結果は概ね良好であった。

### 3 環境に係る課題解決調査

#### 1) 子鬼ヶ瀬川水質調査

子鬼ヶ瀬川流域における旧廃止鉱山廃水及び温泉水等影響調査（54 検体）を実施した。

#### 2) 豊沢川上流域水質調査

豊沢ダム湖水及びその上流域における全窒素・全りん等環境項目調査（30 検体）を実施した。

#### 3) 海域COD上昇原因調査

検査部と共同で、沿岸海域における窒素、りん、Chl.a等汚濁原因調査（198 検体）を実施した。

### 4 水生生物指標河川水質調査

水生生物による水質調査指導及び県内調査結果に基づき河川水質マップを作成している。

### 5 海外技術支援

東アジア環境分析技術支援事業として、韓国から2名及び中国から2名総勢4名の技術研修を受け入れ環境分析技術、環境モニタリング及び分析精度管理手法を指導した。

### 6 委託調査

環境省からの委託を受け、化学物質環境実態調査を実施した。

#### イ) 分析法開発

今年度は、ICP-MSによる環境水中のコバルト分析法開発を実施している。

#### ロ) 詳細環境調査

花巻市内河川水について、詳細環境調査として、セリウム分析を実施している。

#### ハ) モニタリング調査

花巻市内河川（豊沢川）において、河川水及び底質の残留性有機汚染物質（POPs）調査のためのサンプリング等を継続実施している。同様に山田湾において、アイナメ及びムラサキガイを、盛岡市郊外では、ムクドリ汚染状況を経年監視している。

### 7 調査研究

#### 1) 有機機フッ素化合物に関する研究

米国環境保護局、大連理工大学、中国医科大学、韓国国立釜慶大学、韓国国立全南大学、京都大学及び岩手大学並びに国立環境研究所との共同研究として実施している。

#### 2) PPCPs県内環境調査研究

環境水中のコバルト及びセリウムの同時分析検討と県内調査等を実施している。

## 地球科学部

### 1 平成22年度の動向

地球科学部は、大気常時監視、新幹線鉄道等の騒音・振動調査、酸性雨調査、環境放射能水準調査等の大気環境業務に加えて、イヌワシなど鳥類の保護、クマ・シカなど大型哺乳動物の保護管理、希少植物の保全等の自然環境及び近年大きな関心もたれている地球温暖化防止に関する調査研究を行っている。

### 2 行政検査

行政検査として、環境大気環境基準適合状況等「23, 452件 26, 429項目」について実施した。

#### 1) 大気の常時監視

##### (1) 一般環境大気測定局

一般大気環境中の二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、オキシダント、非メタン炭化水素、微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)等に係る環境基準の達成状況を把握するため、県内11測定局において自動測定機による常時監視を実施している。

##### (2) 自動車排出ガス測定局

自動車の走行による大気汚染の監視・測定のため、都市部の幹線道路沿い2測定局において、自動測定機により窒素酸化物、浮遊粒子状物質等の常時監視を実施している。

環境基準の達成状況は、一般環境大気測定局、自動車排出ガス測定局ともに全測定局でオキシダント及び微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)を除く項目について、年間を通じての長期的評価で環境基準を達成した。

##### (3) 有害大気汚染物質のモニタリング

有害大気汚染物質のモニタリングのため、県内8地点において、毎月ベンゼン等19物質の測定を行っている。

調査結果は、環境基準が定められている物質については、全地点で基準以下であった。

#### 2) 酸性雨実態調査

酸性雨の降水成分の実態を把握するため、県内4地点において、pHや各種イオンを測定している。

4地点のpH測定結果は、加重平均で5.2で前年度と同じ値であった。

#### 3) 新幹線鉄道騒音振動調査

新幹線鉄道騒音環境基準及び新幹線鉄道振動対策の状況を把握するため、10地点において調査を行った。調査結果は、振動は全地点で指針値以下であったが、騒音は12.5m地点において3ヶ所で環境基準を超過しており、関係機関に対応を求めた。

#### 4) 航空機騒音調査

花巻空港の環境基準達成状況を把握するとともに、地域指定の見直しの基礎資料を得るため、6地点で調査を行っている。

測定は県南広域振興局花巻総合支局で行い、当センターはデータのとりまとめ及び解析を担当している。

調査結果は、環境基準が設定されている全地点で基準以下であった。

### 3 自然環境保全調査等

#### 1) ガンカモ科鳥類生息調査

県内の鳥獣保護員等の協力を得て、わが国におけるガン・カモ・ハクチョウ類の冬期生息状況を把握し、野生生物保護行政の基礎資料を得るための全国一斉調査に参加、とりまとめを行った。

#### 2) 指定希少野生動植物モニタリング調査

「岩手県希少野生動植物の保護に関する条例」に規定する指定希少野生動植物のモニタリング調査。22年度は、ハヤチネウスユキソウについて、生育状況を調査した。

#### 3) ニホンジカ植生(ササ)調査

「シカ保護管理計画」に基づき、ミヤコザサの採食状況を調査した。

#### 4) ニホンジカ生息密度調査

「シカ保護管理計画」に基づき、追い出し法による五葉山周辺のシカ生息密度調査を行った。

#### 5) ニホンジカ捕獲個体調査

「シカ保護管理計画」に基づき、捕獲個体からサンプルを採取し、年齢査定や栄養状態などの調査を実施した。

#### 6) ツキノワグマ捕獲個体調査

「ツキノワグマ保護管理計画」に基づき、有害捕獲されたツキノワグマについて、年齢査定、栄養状態、胃内容物、DNA等の解析を行っている。

### 4 二酸化炭素排出量推計

地球温暖化対策を推進するための基礎資料として、各種エネルギー統計資料等を用いて、県内の二酸化炭素排出量の推計を行っている。

### 5 委託調査

#### 1) 国設酸性雨測定所の管理・運営

環境省の委託を受け、「酸性雨長期モニタリング計画」に基づき、国設八幡平酸性雨測定所(雫石町網張)の保守管理及び降水の成分等の測定を行っている。

年間を通じ、隔週ごとに検体を回収し、pHや各種イオンを測定した。

また、22年度は、酸性雨による生態系への影響の早期把握を目的として、樹木衰退度調査及び土壌調査を行った。

#### 2) 環境放射能水準調査

文部科学省からの委託を受け、定時降水の全線の測定を実施しているほか、降下物、上水、牛乳、野菜、精米、土壌、海水、海産物、海底土、大気浮遊塵について線核種分析を行った。

また、モニタリングポストによる空間線量率の連続測定(自動記録、24時間連続毎日)を行っている。

調査結果は、異常値は観測されず、例年並の低いレベルで推移している。

#### 3) 化学物質環境汚染実態調査

環境省からの委託を受け、雫石町網張において大気モニタリング調査(残留性有機汚染物質-POPs)のサンプリングを2回行った。

### 6 調査研究等

平成22年度は主たる調査研究として、次の課題を実施し、成果は学会等において口頭および報文にて発表している。

#### 1) 希少植物の保護と増殖に関する研究

- 2) 遺伝子解析法を用いたツキノワグマのモニタリング調査手法の開発
- 3) イヌワシおよび希少鳥類の保全手法の検討
- 4) 大気中有害物質の環境分析・環境リスクの可視化と環境情報発信システムの構築に関する調査研究
- 5) 酸性雨による環境影響の総合評価(北海道・東北広域連携事業)
- 6) ウイルス媒介性節足動物の生息に関する研究
- 7) クマ類の個体数推定の開発に関する研究
- 8) 新たな手法による野生動物の生息地利用及び被害防除システムの構築に関する研究
- 9) ゴマシジミの保全に関する研究

## 検査部

### 1 平成22年度の動向

平成17年4月に地方振興局(保健所)の検査室を統合して、当センターに検査部が新設された。

業務は、振興局(保健所)の検査室が行っていた検査を継承し、公共用水域、工場・事業所排水、収去食品等の行政検査、緊急時対応として事件事故、食中毒、感染症等の検査及び飲料水等の依頼検査を行っている。

### 2 行政検査

公共用水域に係る検査1,420検体、地下水質測定計画に関わる検査163検体、工場・事業所排水検査531検体、収去食品検査724検体、事件事故対応検査43検体、有害大気汚染物質検査60検体、食中毒検査192検体、感染症検査609検体などについて実施した。

#### (1) 公共用水域に係る検査

平成22年度公共用水域水質測定計画に基づき河川124地点、湖沼4地点、海域37地点から採水した1,420検体について、生活環境項目、健康項目、要監視項目等について検査した。

#### (2) 地下水に係る検査

平成22年度地下水測定計画に基づき、概況調査62地点、継続監視調査86地点、汚染井戸周辺地区調査15地点から採水した163検体について、環境基準項目、要監視項目等の検査を行った。

#### (3) 工場・事業場排水に係る検査

振興局が採水した531検体について生活環境項目を検査した。このうち58検体は有害物質(VOC)を合わせて検査した。

#### (4) 収去食品に係る検査

平成22年度計画に基づき収去された食品等について、化学検査では規格基準93検体、細菌検査では規格基準(含む衛生規範)461検体、汚染実態調査151検体、その他19検体を検査した。

#### (5) 有害大気汚染物質に係る検査

県内5地点60検体の大気中ホルムアルデヒド、アセトアルデヒドを検査した。

#### (6) 事件事故対応に係る検査

水質汚濁関連35検体及び食品苦情関連8検体を検査した。

#### (7) 食中毒に係る検査

食中毒が疑われた事件において、全192(食品55、便88、施設のふき取り45、その他4)検体を検査した。

#### (8) 感染症に係る検査

医師から届出のあった感染症患者家族の便等609検体を検査した。

### 3 依頼検査

#### (1) 飲用水に係る検査

保健所で受付けした簡易検査712検体について飲料水として基本となる10項目を、一般検査及び高度検査53検体については基本項目及び消毒生成物等の21項目を検査した。

### 4 調査研究

#### (1) 岩手県海域の水質変動要因に関する研究< 海域COD上昇原因の究明調査 > (35頁)